

2019年08月20日 3面

文字サイズ 小 中 大 [ブックマーク](#) [印刷](#) 

昭和土木・大林道路JV／名古屋中央アスコンの施設リニューアルが完了

リニューアルを終えた名古屋中央
アスコン

昭和土木・大林道路JVが名古屋市港区に保有している名古屋中央アスコンの施設リニューアルが完了した。稼働開始から約40年が経過し老朽化していた設備を更新。アスファルトプラントの製造能力を引き上げ、合材サイロも増設した。昭和土木の神野紀代子会長と神野晋也社長、大林道路の濱田道博代表取締役副社長ら22人が出席し、新施設の稼働を祝う安全祈願祭を6日に開いた。

リニューアルではアスファルトプラントの製造能力を1時間当たり60トンから96トンに引き上げた。合材サイロは100トンサイロ2基だったのを、120トンサイロ1基と100トンサイロ1基の合計2基体制にした。電光掲示板に車番標示を設置して顧客の利便性向上を図った。環境負荷を低減する環境対応型のアスファルトプラントとして、脱臭装置や都市ガス燃料を導入した。日工が施工した。

大林道路の濱田副社長は「設備更新により、生産性の向上と環境配慮を実現できた。今まで以上に顧客の皆さまにご愛顧いただけるよう高品質の合材を迅速に提供し、地域社会の発展に貢献していけるようにより努力していく」と述べた。

名古屋中央アスコンは1980年に昭和土木が名古屋合材センターとして開設。2006年に大林道路がJV参画した。

[閉じる](#)

記事ID : 3201908200304

Copyright(C) 日刊建設工業新聞 記事の無断転用を禁じます